



ドロップゾンデ受信システム



機内で準備を行う当社従業員

ドロップゾンデ 日本初「大気の河」を上空から観測

7月5日、名古屋大学の坪木教授を中心とする研究チームが、大量の雨をもたらす要因と考えられている「大気の河」を日本で初めて上空から観測を行いました。この観測は線状降水帯の予測精度向上につなげるための大規模実験として実施されたものであり、当社のドロップゾンデが使用されました。

「大気の河」とは、台風などに伴い海上を流れる大量の水蒸気の帯のことで、線状降水帯を生み出す一因と考えられています。当社従業員も航空機に搭乗し、県営名古屋空港から沖縄県の宮古島までを往復、東シナ海周辺と太平洋でドロップゾンデを53個投下しました。投下地点の各高度での湿度や気温、気圧、風向・風速などの観測を行いました。

明星電気の高層気象観測装置が、豪雨災害の防災・減災を目指すプロジェクトで活用されています。

(担当: 気象防災事業部)


 後列中央左から 平井先生 江口先生
校舎屋上のPOTEKAと地理学科のみなさん

駒澤大学 授業でPOTEKA NETを活用

駒澤大学文学部地理学科の授業において、POTEKA NETの観測結果画面がWeb教材(気象庁推計気象分布、地上天気図などを含む)として活用されました。授業では、記録的猛暑となった6月25日の関東内陸部(群馬県伊勢崎市で40.2度を記録)の気温や湿度、日射や平均風速などの状況について説明されました。

後日、地理学科の皆さんに校舎屋上に設置されたPOTEKAを見学してもらいながら、当社従業員がPOTEKAの観測方式などを実機で説明して理解を深めていただきました。

明星電気は、POTEKAによる気象観測網を充実させ、地域社会に役立つ情報を提供していきます。

(担当: 気象防災事業部)



POTEKAオンラインセミナーの様子

第3回 POTEKAオンラインセミナーを開催しました！

7月27日、第3回 POTEKAオンラインセミナーを開催し、40以上の自治体職員の皆さまにご参加いただきました。

今回は「豪雨災害に対するリスクマネジメント」をテーマとして、講師の公立鳥取環境大学 重田祥範准教授から、「日最大降水量のランキング」や「積雪・融雪による土砂災害発生件数」などのクイズのほか、自治体職員の皆さまが抱えておられる課題などを交えてご講演いただきました。当社は「災害リスクの早期検知に有効な地域気象観測システム」と題して、POTEKAの紹介と導入いただいている自治体の活用事例を紹介しました。

今後もオンラインツールを積極的に活用して、POTEKAの導入事例や防災対策事例を紹介し、安全・安心な社会の発展に貢献してまいります。

(担当: 気象防災事業部)

【文中: 敬称略】

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。